

Analisis Tingkat Pemahaman Mahasiswa terhadap Penggunaan *Jodoushi ~Souda* dan *~Rashii* sebagai *Denbun No Hyougen*

Kania Srirahayu

1003154

ABSTRAK

Penelitian ini dilakukan untuk mengetahui tingkat pemahaman mahasiswa tingkat III JPBJ UPI terhadap penggunaan *jodoushi ~souda* dan *~rashii* sebagai *denbun no hyougen*, dan mengetahui apa saja kesulitan yang dialami oleh mahasiswa tingkat III JPBJ UPI dalam menggunakan *jodoushi ~souda* dan *~rashii* serta faktor apa saja yang menyebabkan kesulitan tersebut muncul. Metode yang digunakan dalam penelitian ini adalah metode penelitian deskriptif dimana peneliti menjabarkan masalah yang diteliti secara apa adanya. Hal tersebut mengacu pada hasil analisis data yang telah dilakukan sebelumnya. Instrumen yang digunakan pada penelitian ini untuk mengumpulkan data yaitu tes dan angket. Karena penelitian ini merupakan penelitian kuantitatif yang menggarap bidang pendidikan, maka data diolah dengan menggunakan ilmu statistik, lalu hasilnya ditafsirkan secara deskriptif. Hasil penelitian ini membahas sejauh mana tingkat pemahaman mahasiswa dalam menggunakan *jodoushi ~souda* dan *~rashii* dalam menyatakan *denbun no hyougen*. Setelah dianalisis, diketahui bahwa tingkat pemahaman mahasiswa terhadap penggunaan kedua *jodoushi* tersebut adalah sangat kurang. Selain itu, diketahui juga bahwa mahasiswa mengalami kesulitan dalam menggunakan dan membedakan kedua *jodoushi* tersebut, yang disebabkan oleh beberapa faktor. Penelitian ini perlu ditindaklanjuti karena garapannya masih luas dan memiliki manfaat bagi pembelajar, dan pengajar bahasa Jepang.

Kata kunci : *Denbun no hyougen, Jodoushi, Souda, Rashii*

The Analysis of Student's Comprehension Level in Case of Using ~Souda and ~Rashii Jodoushi as Denbun No Hyougen

Kania Srirahayu

1003154

ABSTRACT

This research was done in Japanese Language Education Department of UPI and the research involved the third grade of college student as research samples. The goal of this research was for knowing the level of comprehension from the third grade students of JPBJ UPI in using *~souda* and *~rashii jodoushi* as *denbun no hyougen* and knowing the difficulties which was faced by the third grade students of JPBJ UPI when using *~souda* and *~rashii* and what factors lead to those difficulties. The method which used in this research was descriptive research method, so the researcher described the real problems of this research. It leads to the result of analysis which has been done before. The instrument of this research to collect data was using test and petition. This research was done as a quantitative research in the field of education, so all data will be calculated with statistic method and the result will be converted to descriptive method to describe the result. The result of this research would discussed how far the level of comprehension from the students in using *~souda* and *~rashii jodoushi* as *denbun no hyougen*. After the analysis was done, researcher knew that the level of the student's comprehension in using both of *jodoushi* was deficient. Beside that, researcher knew that the students were difficult to differentiate or to compare both of those *jodoushi*. It's because of several factors. This research needed to be anticipated because it's contain was wide and having benefits for Japanese learners and teachers.

Keywords : *Denbun no Hyougen, Jodoushi, Souda, Rashii*

Kania Srirahayu, 2014

Analisis tingkat pemahaman mahasiswa terhadap penggunaan jodoushi -souda dan-rashii sebagai denbun no hyougen

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

伝聞「～そうだ」と「～らしい」という助動詞の使い分けに対する学習者の理解度の分析

カニア・スリラハユ
1003154

要旨

本研究は伝聞の表現としての「～そうだ」と「～らしい」という助動詞の使い分けに対する学習者の理解度を分かるために行った。その中で、学習者が伝聞の表現としての「～そうだ」と「～らしい」の使い分けに対する理解度をどのくらい分かるか、その原因は何だろうかということをも明らかにした。

対象となった者は、インドネシア教育大学日本語学科の三年生である。本研究はデスクリプト方法を使用し、道具としてはテストとアンケートを使用した。本研究は定量的研究であり、データは統計的分析で行いまとめた。これらの調査から得られた結果としては、学習者はこの助動詞の使い分けがたいへん足りないということが分かった。学習者は伝聞の「～そうだ」と様態の「～そうだ」がよく間違えるという一つの原因であることがかかてんできた。

キーワード：伝聞の表現、助動詞、そうだ、らしい

A. はじめに

日本語にいろいろな表現がある。その一つは伝聞というものである。伝聞は「話者がある事柄を他から聞いて、あるいは、読んで知ったという意を表す表現」である (Ogawa Yoshio 1982:205)。この表現を表すに用いられる助動詞がある。その中で、「～そうだ」と「～らしい」というものである。「～そうだ」と「～らしい」はほとんど同じであるから、区別が難しい。

「～そうだ」と「～らしい」の助動詞について研究は多くあるが、大部分は様態「～そうだ」、あるいは、推定「～らしい」の使い分けを調査している。それに、理解度についての調査はほんのわずかである。「～そうだ」と「～らしい」を理解しなかったら、助動詞が習得もできないだろうと思われる。このように、「～そうだ」と「～らしい」という助動詞の使い分けに対する学習者の理解度を調査することにした。

B. 研究の目的

1. 学習者の理解度に対する伝聞「～そうだ」と「～らしい」の助動詞を知るためである。
2. 学習者が伝聞「～そうだ」と「～らしい」の助動詞の使い方においてどんな困難が直面しているのかさぐる共にその原因を知るためである。

C. 研究の方法

本研究の方法はデスクリプト法を使用し、デザインとして実態研究デザインを用いる。研究の道具は二つあり、テストとアンケートである。

本研究は2014年5月30日に実施^{じっし}し、対象者は三年生の日本語の学生50名である。データを収集するために、客観テストと主観テストを使用する。客観的なテストは35問であり、主観テストは5問である。テストの目的は伝聞「～そうだ」・「～らしい」の理解度を計るためである。

D. 基礎的な理論

1. 品詞分類

品詞分類は文法上の単位として抽象された語（単語）について、形態・意味・職能の三つの観点から文法上の性質を類別すること、また類別されたもの (Ogawa Yoshio, 1982, hlm. 97-98)。日本語に名詞、動詞、形容詞、形容動詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞、助詞、助動詞がある。

a. 助動詞

助動詞は品詞の一。常に他の語のあとに付いて使われる語のうち、活用する語 (Shinmura Izuru, 1998, hlm. 1350)。さらに、形態的な特徴として、常に他の語に付属して用いられる語のうち、活用を有するものを一般に助動詞という (Ogawa Yoshio, 1982, hlm. 142)。

2. 表現

表現は心的状態・過程または性格・志向・意味など総じて精神的・主体的なものを、外面的・感性的形象として表すこと (Shinmura

Izuru, 1998, hlm. 2275)。日本語にいろいろな表現がある。一つ目の表現は伝聞である。

3. 伝聞の表現

伝聞とは第三者からの情報を相手に伝えるものである (Goran, 2013, hlm. 47)。伝聞を表す助動詞が多い。例えば「～そうだ」と「～らしい」である。

a. ～そうだ

文法 II には、「そうだ」は、伝聞、すなわち、他から何かの情報を得、話し手が現に身を置く時点において、その情報内容を現実の事態と矛盾することがないものとしてとらえた場合に、それを自分の判断に置きかえて述べる表現形式である (*The Japan Foundation*, 1980, hlm. 106)。

b. ～らしい

「らしい」は状況からの判断を表す場合と伝聞を表す場合の両方にまたがった表現です (Iori Isao, 2000, hlm. 131-132)。

E. 分析の結果

1. テスト

分析の結果によって、伝聞の表現として「～そうだ」と「～らしい」の使用に対するの学習者の理解度は (46, 4%) である。その結果は学習者の理解度はたいへん足りないという意味である。さらに、各々の助動詞に対しての理解度は、「～そうだ」は足りない

(56%)、「～らしい」はたいへん足りない(48, 33%)。「～そうだ」と比べると、「～らしい」を使用するの理解度のほうが低い。そのために、伝聞の表現として「～そうだ」と「～らしい」の使用を区別するの理解度は悪い(44, 5%)。

2. アンケート

アンケートの分析をしてから、学習者が伝聞の表現として「～そうだ」と「～らしい」を使方が難しいことは、「～そうだ」と「～らしい」を区別することができないが分かった。それに、原因は「～そうだ」と「～らしい」を用いるの区別は知らないから、この助動詞を使用するときに難しいと感じられる。「～そうだ」と「～らしい」ほとんど同じであるから、区別することが難しい。

F. 終わりに

調査から得られた結果としては、学習者はこの助動詞の使い分けがたいへん足りないということが分かった。それに、「～そうだ」と比べると、「～らしい」を使い方の理解度のほうが低い。学習者が伝聞の表現として「～そうだ」と「～らしい」の使方が難しいと感じたのは、「～そうだ」と「～らしい」を区別することができないと分かった。これに対して、様々な原因を本論文で取り上げた。学習者は「～そうだ」と「～らしい」の使い方の区別は知らないため、この助動詞を使用するときに難しいと感じられる。そして、「～そうだ」と「～らしい」はほとんど同じであるため、区別することが難しい。

G. 参考文献

Goran. (2013). Nihongo no Denbun Hyougen. *Kokusai Bunka Kenkyuu*, 1 (1), hlm. 47.

- Iori, Isao dkk. (2000). *Shokyuu o Oshieru Hito no Tame no Nihongo Bunpou Handobukku*. Japan: 3A Corporation.
- Shinmura, Izuru. (1998). *Koujien Daigokan*. Japan: Iwanami Shoten.
- Sutedi, Dedi. 2009. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.
- The Japan Foundation. (1980). *Kyoushiyou Nihongo Kyouiku Handobukku Bunpou II*. Tokyo: Bonjinsha.
- Yoshio, Ogawa. (1982). *Nihongo Kyouiku Jiten*. Japan: Daishuukan Shoten.